



CIRのつぶやき



国際理解教育・国際交流・
国際協力・国際観光・多文化・
相互理解と友好を図る

Facebook page :
滝川市国際交流員/Takikawa CIRs

いいね!
押してね😊

2024.04.01 第48号 世界の遊牧民

こんにちは、モンゴル出身国際交流員のノミンです。皆さんは「遊牧民」という言葉を聞くと、真っ先に「モンゴル」を思い浮かべるのではないのでしょうか？

これまでモンゴルの遊牧文化に関する話題を中心に紹介してきましたが、実は遊牧民が暮らすのはモンゴルだけではなくありません。近代化が進み、多くの民族が遊牧生活をやめて定住生活を送るようになった現代でも、世界の様々な地域で未だに遊牧生活を送っている人々が存在するのです。今回は、そんな世界の遊牧民の一部を皆さんにご紹介したいと思います。

モンゴルの遊牧民



まずは、私と同じモンゴル民族です。モンゴル民族の遊牧民はモンゴル国と中国の内モンゴル中心にいます。内モンゴルとモンゴル民族は言語や文化的に同一民族です。

モンゴル民族の遊牧民の移動手段は馬とラクダで、広大な大草原をゲルと呼ばれる移動式住居を使って、牛、山羊、羊の5家畜と共に遊牧して生活しています。近年、モンゴルも内モンゴルも遊牧民の数が著しく減っています。日本の小学校の教科書にある「スーホの白い馬」を皆さんはご存じでしょうか？最も馴染みのある遊牧民の姿だと思います。

あまりイメージがないと思いますが、チベット高原にも遊牧民が存在します。チベットの遊牧民は夏と冬の年に2回移動します。夏の間は「ヤク」や羊などの家畜とともに移動して遊牧に行き、冬の間は土の煉瓦で作られた住居で暮らすような「半遊牧」の生活です。

彼らが夏の間にも暮らす移動式住居は、モンゴルのゲルと違って突き上げ式のテントで、テントの生地は通気性がよく丈夫な黒いヤクの毛から作られています。衣食住の多くをヤクに依存しているため、彼らにとって、ヤクは古くから生活を支えるライフラインです。しかし、こうした昔ながらの生活を続けているチベット遊牧民の数はだんだん減ってきています。

チベットの遊牧民族の女性



ヤク

写真提供元:www.bakaspictures.com

鷹を操るカザフ人の少女



写真提供元:写真家エルデネブルガンさん

中央アジアのカザフスタン、ウズベキスタン、キルギス、トルクメニスタンのテュルク系民族、タジキスタン、アフガニスタンのタジク人やハザーラ人が遊牧民族です。現在でも、テュルク系をはじめとする異なる民族が遊牧生活を送っています。

テュルク系遊牧民は、「ユルト」と呼ばれるゲルに似ているドーム型の移動式住居に住んでいます。

一般的に彼らの多くはイスラム教を信仰していますが、イスラムが入ってくる以前の宗教的慣行であるシャーマニズムなどの信仰が現在でも残っています。しかし、イスラム教の戒律や伝統は比較的緩やかです。



CIRのつぶやき



国際理解教育・国際交流・
国際協力・国際観光・多文化・
相互理解と友好を図る

Facebook page :
滝川市国際交流員/Takikawa CIRs

2024.04.01 第48号 世界の遊牧民族

パシュトゥーン系の遊牧民族



写真提供元:newcropshop.com

中東の遊牧民

中東の山岳地帯や砂漠地帯にも、イラン系やアラブ系の遊牧民が点々と生活しています。

イラン系の遊牧民族としては、イランの最大の遊牧民族であるカシュガイ族やトルコ、シリアなどにも居るクルド族などが挙げられます。主に羊やヤギを家畜として飼っている人々が多いです。

また、アラビア砂漠をはじめとする乾燥した砂漠地帯で遊牧生活を送るアラブ系遊牧民のベドウィン族などもあります。ベドウィン族は、ラクダや羊、ロバなどを主な家畜とし、年間を通して水や食糧を求めて、ラクダやロバを移動手段として各地を遊牧して生活します。中東の遊牧民はヤギなどの毛で作られた突き上げ式テントが特徴なキャンプ場に住み、牧畜の他に絨毯などの装飾品を作って生活を送る人々が多いです。

アフリカの遊牧民

大きく分けて、アフリカにはラクダ牧畜とウシ牧畜の遊牧民族がいます。ラクダの遊牧はベルベル人系の遊牧民が住むサハラなどの砂漠・乾燥地域で、牛の遊牧はマサイ族などが住むサバナ地域、東アフリカなどで多いです。

日本でよく知られている東アフリカに住むマサイ族は、近年では都市への定住化が目立ちますが、本来は半遊牧民です。

遊牧生活を送るマサイ族は基本的に、男性は家畜の放牧を担当し、家畜や村が猛獣に襲われた時には闘います。一方女性は、遊牧中の仮住まいを建てて、家事や子どもの世話や遊牧から帰った家畜の世話もします。

マサイ族の男性



写真提供元:www.theguardian.com

サーミ族の男性



写真提供元: letsgo-sweden.com

サーミと呼ばれるトナカイ遊牧民の人々が、北欧スカンジナビア半島の最北部、北極圏中心に分布しています。現在サーミは、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドの北欧三国とロシアの四ヶ国に居住しています。

サーミは、厚い毛皮のトナカイとともに、季節ごとに移動しながら、極寒の自然の中で狩猟や遊牧を行ってきました。トナカイ遊牧は、サーミのアイデンティティを形成してきましたが、近代化と多様化が進みサーミが様々な職につくようになった現代では、トナカイ牧畜に従事するサーミは10%未満とされています。